

平成29年度学校自己評価システムシート (開智未来高等学校)

目指す学校像	国際社会に貢献する心ゆたかな“創造型・発信型”リーダーを育成する学校
--------	------------------------------------

重点目標	1 国際社会に貢献する心ゆたかなリーダーを育てる教育活動の推進 2 確かな学力と創造型・発信型知性を伸ばす授業・教育活動の推進 3 教育活動を開発し発信することで社会に貢献する学校づくり
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	4	名
	事務局(教職員)	8	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年度評価 (3 月 1 9 日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	学びと人間(知性と志)を追及し、知的な学校文化を創る。また、教育プログラムの改善・充実に努め、開智未来の教育を確立する(創り続ける)。 プロジェクト5I'sに全職員で取り組み、具体的に推進する。	学校目標を踏襲し、生徒の成長を促す。また、文武一体を通して、たくましい生徒を育てる。 5I'sにおいて特に発表力向上を達成する学年を超えてつながりある教育プログラムを作る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動、委員会活動、クラス活動、部活動を利用して生徒の成長を図る。 文武一体を目指す部活動を実践する。 海外フィールドワークなどの英語学習プログラムを見直す。 新プロジェクトとして未来tedを企画し発信力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動や部活動において生徒が自ら工夫し取り組む姿勢が成し遂げられているか。 未来tedを通して生徒の発表、発信力に向上が見られたか。 平常時の様々な活動が5I'sの中でより明確に位置づけられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会主導により通学バス拠点における清掃、あいさつ運動を実施、地域への貢献活動を推進することができた。 未来tedでは各学年の探究活動と融合して工夫した発表を行うことで発信力の向上が実現できた。 5I'sのInquiry(探究)について多くの教員がこれを意識した授業づくりが推進された。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 中学部と高校部の活動の連携をより密にし、多くの生徒が主体的・自律的に取り組めるようにしていきたい。 iPadの導入にともない、ICT教育をさらに充実させるための具体的指針や方策を打ち出していく。 若い教員にさらなる力量アップを求め本校の教育の継承を目指していきたい。
2	5I'sプロジェクトの一端を成すICT環境を構築すると同時に授業での利用を視野に入れ、インフラの整備を行う。	コンピュータ室の更新や校内WiFi環境の整備、タブレット導入に対し具体的利用法の研究を深めと実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 国のIT補助金や保護者会からの支援を受けて、どれだけ高機能なシステムが構築できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での活用、校務の軽減を目指した構成になっているか。 タブレットをどのような形で活用するか、課題は何かなどきちんと整理できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット導入をふまえたシステムが構築できた。 タブレット導入に関し、ICT委員会や教科会などを通じて活用方法の具体的研究と実践例の共有が推進できた。 	AA	<ul style="list-style-type: none"> ICT利用に関して更なる研究を進め、効果的な利用方法を模索する。 タブレット導入完成年度(31年度)まで発生するさまざまな問題に関し、教育レベル、インフラレベルでの切り分け対応を行う。
3	卒業学年の生徒に対し、丁寧な進路指導を行い、一人一人の進路実現に結びつける。	<ul style="list-style-type: none"> 進路実績の向上 新大学入試に向けた情報収集と研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習(独習、学び合い)を推進する。 未来ゼミ、特別講習を通して、すべての学力層に応じた指導を実現させる。 勉強合宿、長期休業講座(夏期、冬期、春期)、10時間勉強マラソンを実施する。 進路情報の共有 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習に生徒は参加しているか。 生徒の学習への姿勢は高まったか。 それぞれの学力に応じて学力が伸びたか。 入試から進路先決定までのデータが適切に管理・運用できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びの朝は開智未来の伝統になりつつある。 特別講習は生徒の進路実現にほぼ結び付き東大2名、旧帝大+国立医9名を含み国公立39名の合格者を出した。 また、早慶上理ICUで53名GMARCH72名の実績を出した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「学びの朝」を生徒募集で広報し、意識のある生徒を集め、開智未来のよき伝統としたい。 東大に合格するような知性を低学年から育てるための方策を考えたい。
4	辺境の地で、交通の便が悪く、施設・設備も貧弱な学校に生徒・教員を集め、学校・地域の活性化を目指すために、教育内容や教員、面倒見のよさをアピールしていく。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・教員募集 学習環境の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 開智未来の教育をホームページやFBで発信する。 昨年同様WEB出願を取り入れシステムティックな入試体制を作る。 校内の学習環境をどれだけ整備できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くのコンテンツを発信できたか。イベント申込者数や志願者数はどれだけ増えたか。 老朽化に伴う学習環境の未整備場所にどれだけ着手できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> Facebookページの運用も安定して行われ、WEB出願の効果もあり、志願者・入学者増につながった。 放課後の学習のための学習スペースの工夫や、網戸の増設、照明のLED化など学習環境改善が進んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> さらなる情報発信。特にFacebookの利用と生徒募集上の効果の研究 医系コースの具体的導入方法の準備、研究。 学校以北在住の受験生を増やす方法が具体的方策。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成30年4月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 授業公開日などで学校を訪れると、未来生たちが廊下ですれ違う時、元気に挨拶をしてくれる。 さまざまなFWを楽しそうに主体的に取り組んでいる。 校長からのメッセージやFacebookに掲載する情報で学校の様子がとてもよくわかる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 先進的なICT導入を目指すという言葉を信じ、保護者も心から応援したいと思う。 タブレット導入はかなり急に進んだ話であるが、子供たちは思いのほか自然に使いこなしている。 中学生との同時導入だが、高校生ならではの使い方を工夫してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 保護者会活動のため朝早い時間に学校を訪れると学習スペースやアカデミアで学習している生徒たちの姿を目にすることができる。この人数の多さに驚くと共に学習への意欲を感じる。 未来ゼミは意欲ある生徒たちの向上心を刺激して、学習意識を高めていたように感じる。 卒業生たちは先輩に続けという向上心のもと、自己の進路実現に向けて努力を続けた。 	
<ul style="list-style-type: none"> 実績を出しているのに入学生が激増しない点を寂しく感じるが、少人数で面倒見がよいという安心感がある。 学習環境が良くなって生徒たちも喜んでいる。 	